

龍神祝詞

たかあまはらにましまして てんとちにみはたらきをあらわしたまうりゅうおうは

高天原に坐し坐して天と地に御働きを現し給う龍王は

だいうちゅうこんげんの みおやのみつかいにして いっさいをうみ いっさいをそだて

大宇宙根元の御祖の御使いにして一切を産み一切を育て

よろずのものをこしはいあらせたまう おうじんなれば

萬物を御支配あらせ給う王神なれば

ひふみよいむなやことの

一二三四五六七八九十の

とくさのみたからを おのがすがたとへんじたまいて

十種の御寶を己がすがたと変じ給いて

じざいじゅうに てんかいちかいじんかいを おさめたまう

自在自由に天界地界人界を治め給う

りゅうおうじんなるを とうとみうやまいて

龍王神なるを尊み敬いて

まことのむねひとすじに みつかえもつすことよしを うけひきたまいて

眞の六根一筋に御仕え申すことの由を受け引き給いて

おろかなるこころのかずかずを いましめたまいて

愚かなる心の数々を戒め給いて

いっさいしゅじょうのつみけがれのころもを ぬぎさらしめたまいて

一切衆生の罪穢れの衣を脱ぎさらしめ給いて

よろずのものの やまいわざわいをも たちどころにはらいきよめたまい

萬物の病災をも立所に被い清め給い

よろずせかにもみおやのもとにおさめせしめたまへと

萬世界も御親のもとに治めしせめ給へと

こいねがいたてまつることのよしをきこしめして

祈願奉ることの由をきこしめして

むねのうちにねんじもおす だいがんをじょうじゅなさしめたまへと

六根の内に念じ申す大願を成就なさしめ給へと

かしこみかしこみもおす

恐み恐み白す